特定非営利活動法人アイキャン

2022 年度　事業報告書

～人々の「ために」ではなく、人々と「ともに」～

Not “for” the people, but “with” the people

ICAN
INTERNATIONAL CHILDREN'S ACTION NETWORK

活動のお礼とご挨拶

一人ひとりの「できること」を持ち寄って、大きな力へ

2022 年度もアイキャンの活動を応援してくださり、誠にありがとうございました。2023 年 2 月に事務局長に就任しました、福田浩之（ふくた　ひろゆき）と申します。私は約 10 年間、フィリピンに駐在をしてまいりました。その 10 年は、現地の子どもたちや住民の人々と喜びを分かち合い、苦難をともにし、悩みながら歩んできた日々でした。また、日本の皆さまの温かいお気持ちを感じる日々でした。

コロナ禍は爪痕を残しながらも終息に向かいつつあり、今年度はフィリピンの子どもたちが学校への通学を再開できたとともに、日本の皆さまに現地を訪れていただくスタディアツアーも約 3 年半ぶりに再開することができました。そして、今年度末には元職員 3 名を迎え、アイキャンは新たな組織体制で再出発していくことになりました。

来年度、アイキャンは設立から 30 年目を迎えます。変化の激しい現代社会で、我々アイキャンも社会の変化や要請に柔軟に対応しつつ、これまでの 30 年間の経験を活かしてまいります。今後も皆さまとともに、一人ひとりの「できること」を持ち寄って、よりよい社会の実現を目指していきますので、引き続き応援のほど、よろしくお願いいたします。

事務局長　福田 浩之

アイキャンのビジョン

世界中の子どもたちが権利を享受し、将来にわたり自立した生活を送れる平和な社会

アイキャンのミッション

一人ひとりが自ら考え行動する人となり、できることを持ち寄り一丸となって、子どもの能力向上や地域の環境改善を目指すこと

SDGs*の達成を目指しています

＊SDGs：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）
…地球規模の課題に対し、2030 年までに達成するべきとして国連が掲げる 17 の目標

スタッフ紹介

◆日本事務局

吉田 文

藤目 春子

庭田 美環

長谷川 薫

辻 美代子

天羽 由実子

◆フィリピン事務所

柴田 康平

Mariditha Mondares

Gracilda V. Villamor

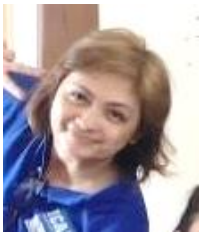
Joan Javier

私は、アイキャンが好きだから、これまで 10 年間アイキャンで働いています。私にとって、アイキャンのメンバーは私の家族。「ともに」活動することで、路上で生活する子どもたちの課題を解決できると信じています。

フィリピン事務所
ジョアン

Edgar Gulla

Honey Lee O. Jamin


Michelle L. Velarde

Roberto O. Roxas

パートナー紹介

◆子どもの家を運営する現地スタッフ

Marites E. Cangao

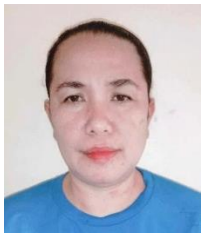
Mary Ann D. Trero

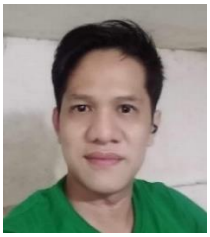
Romel B. Basan

Ivy E.Mislang

Delamar S. Elicay

Renato S. Talle


Mary Jane G. Pacion


Jonel Tambologan

Rica B. Deblois

Jonelyn P. Jamandre

役員一覧　※順不同

代表理事　鈴木 真帆（特定非営利活動法人アイキャン前事務局長代理）

副代表理事　龍田　成人（創設者/工学博士/特定非営利活動法人アイキャン元代表理事）

理事　直井　恵（長野県立上田高校海外交流アドバイザー/草の根文化芸術コーディネーター）

宮脇　聡史（大阪大学大学院言語文化研究科准教授/文学博士）

平山　恵（明治学院大学教授）

楢木　隆彦（田園社会イニシアティブ株式会社 代表取締役/美濃加茂市 SDGs 推進協議会アドバイザー）

阿部　真奈（アイキャン元海外駐在員）

監事　林　俊彰（税理士）

パートナーの皆さま（2022 年度　会員・寄付）

【会員】正会員 21 名、賛助会員 58 名

【寄付】44 法人・団体、個人 2,288 名（一般寄付者 859 名、街頭募金寄付者 560 名、物品収集寄付者 869 名）

※匿名 58 件

寄付による法人・団体のパートナーの皆さま（44 法人・団体）＊五十音順、敬称略

【ア行】　愛知県ユニセフ協会、愛知美術研究所、アシスト、ATLIKE 株式会社、イオンリテール、イビデン株式会社、栄和物商、大前木材株式会社、おひとりさま

【カ行】　ガーデンカフェ やっちゃんち、ガールスカウト岐阜県第八団、かみひとねっとわーく京都事務局、久遠治療院、グラント、コープあいち、国士舘大学

【サ行】　サンデーフォークプロモーション、ジーアセットプランニング、ジェイテクト人事部総務室、シノダ薬局日長台店、ショウテック、聖霊中学高等学校、ソフトバンクグループ

【タ行】　タカラ人材センター、「地球愛祭り 2022 in 京都」実行委員会、帝京大学可児高等学校中学校、戸倉トラクター

【ナ行】　名古屋 NGO センター、名古屋国際中学校・高等学校、名古屋市立北高等学校、日蓮宗本正寺

【ハ行】　フィリピンチャリティーイベント実行委員会、フォルム設計

【マ行】　マルタケ商会、丸正商店、名鉄百貨店、名豊運輸株式会社

【ヤ行】　安井鈑金、安川電機中部支店、矢田工業所

【ラ行】　六花工学、レ・ヴァン、レオニダス

【ワ行】　YNS

＊個人のパートナーの皆さまにつきましては、情報保護の観点から、氏名の記載は割愛させていただきます。

参加ネットワーク

【正会員】　（特活）国際協力 NGO センター(JANIC) … 全国規模のネットワーク NGO

（特活）名古屋 NGO センター … 中部地域のネットワーク NGO

【賛助会員】（特活）ジャパン・プラットフォーム … 緊急救援のネットワーク NGO

メディア掲載（14 件）

毎日新聞 6 件、中日新聞 3 件、Yahoo ニュース 1 件、スポニチ 1 件、クラウドファンディング名鑑 1 件、Reporter's Notebook 1 件、懸賞ふくろう Twitter 1 件

I. 海外事業（フィリピン共和国）

近年、経済成長が著しいフィリピンですが、その一方で、一向に縮まらない経済格差があり、社会から置き去りにされている人々がいます。フィリピンで年々増加し続ける路上の子どもたちは 37 万人*にも上るとされ、「誰一人取り残さない」を理念に掲げた SDGs からは、程遠い状態が続いています。

その状況を変えたい。アイキャンは、その一心で活動してきました。

2006 年からは、路上の子どもの保護活動として、日々の見回りや保健・衛生、教育の活動を行い、2016 年からは、児童養護施設「子どもの家」の運営に関わり、命の危険と隣り合わせの生活をしてきた子どもたちに、安全で愛情あふれる「家庭」を提供しています。

また、2010 年には、路上の若者が自立を目指して運営する協同組合「カリエ」を結成し、パン製造の技術訓練や販売に関する研修を行ってきました。現在のカリエは、パン等の販売で収入を得るだけでなく、今も路上にいる子どもに対して、自身の経験や教育の重要性を共有する活動も行い、路上の子どもの模範的存在にまで成長しています。

この他、低栄養状態の子どもが多い地域において、食行動改善のための啓発活動や給食の提供も行うなど、様々な形で子どもたちの状況の改善に取り組んでいます。

＊フィリピン社会調査研究所の 2015 年の調査より

僕の将来の夢は、仕事をして自分の親に家を建ててあげることと、第二の「子どもの家」をアイキャンにあげることです。建物だけではなくて、たくさんのおもちゃとバスケットゴールもあげたいです。僕のような路上で生活していた子どもが、アイキャンで幸せに暮らしてほしいって思ってるんだ。

「子どもの家」子ども

1. 子どもの家

身寄りのない子どもたちの「今」と「未来」を守る

児童養護施設「子どもの家」の運営と組織強化

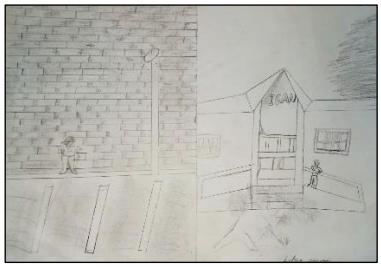
- 地　域　　：フィリピン共和国リサール州サンマテオ町
- 目　的　　：身寄りのない子どもの保護と自立支援
- パートナー：身寄りのない子ども 17 名

フィリピンの路上の子どもたちの多くは、毎日の食事もままならず、危険な環境で生活しています。政府や現地の他団体が運営する児童養護施設は常に満員のため、入所を希望してもなかなか入ることができません。

本事業では、児童養護施設「子どもの家」の運営に関わり、身寄りのない子どもや育児放棄された子どもたち 17 名に、安心かつ愛情にあふれる「家庭」を提供しています。2022 年 8 月には、学校での授業が約 2 年半ぶりに再開し、子どもたちは友達と過ごす時間に胸を躍らせていました。

今期は、親がいる子どもに関して、ソーシャルワーカー（社会福祉士）が家庭訪問を定期的に実施し、親としての悩みや葛藤を聞く時間を設けました。話し合いの中で、ある親は自分が子どもの世話をすると決心し、2022 年 11 月には、子ども 1 名が親の元に戻ることができました。その子どもが戻った地域の福祉課とは合意書を交わし、今後は福祉課が責任を持って、子どもの家庭を支えていくことになりました。

また、現地のパートナー団体も増え、金銭や物品のご寄付だけでなく、12 月には子どもたちを遊園地に連れて行ってくれた企業もありました。



2023 年 4 月 12 日の「路上の子どもの国際デー」に開催したオンラインイベントで、子ども 4 名が過去と今の自分を絵で表現しました。写真左側は路上で物乞いをする自分、右側は「子どもの家」の前に立つ自分を描いたそうです。

以前は学校に通えなくて、路上で物乞いをしていた。お母さんを支えるためには、そうするしかなかった。
今は「子どもの家」で生活していて、学校にも通えるようになった。友達もたくさんできた。今日のご飯はどうしようって考える必要もなくなった。
「子どもの家」で生活ができて、とても嬉しい。僕は幸せです。
（「子どもの家」の子ども）

印象に残っていること　―「子どもの家」施設長のマリテスの声―

子どもたちが「子どもの家」にやってきたばかりの時、寮母が作った目玉焼きをお皿に入れて、他の子どもたちに奪われないように隠そうとする子どもがいました。彼らが路上で生き延びるために日々行ってきた行動の表れでした。でも、今ではそのような行動をする子どもはいなくなりました。子どもたちは、今日の食事はどうしようとか、どこで寝ようかなんて考えなくていい。子どもたちが子どもらしく生活できていることが、私にとって何よりの喜びです。

2-1. 首都マニラ近郊：路上の子どもたち

「自分にもできる！」と言える、自信と力をつける

路上の子どもに対するライフスキル研修*と他団体との連携

- 地　域　　：フィリピン共和国マニラ（マニラ市・ケソン市）
- 目　的　　：路上で生活する子どものエンパワメント（自信と力の獲得）と路上の子どもを取り巻く環境改善
- パートナー：路上の子ども 36 名、3 つの他機関・団体

路上で暮らす子どもたちは、周囲からの差別や偏見に加え、成功体験や人から褒められる経験から排除されてきたことから、「どうせ自分なんて」と自己肯定感が低い傾向にあります。そのような路上の子どもたちに対して、「自分にもできる！」という意識を持ってもらえるよう、ロールモデル（模範的存在）と交流する機会やライフスキル研修を提供しました。

その一つとして、2022 年 8 月に学校に復学をした、ブルーメントリット地区の路上で暮らす 5 名の子どもが、通学していない他の路上の子どもたち 17 名に対して、なぜ復学したのか、今後の目標は何かを語る「意見共有会」を開催しました。同じ地域の仲間の復学に対する決意を聞いた子どもたちは「来学期は自分も復学したい」と語るなど、良い影響を受けました。

また、コロナ禍により長らく活動を停止していた「路上教育」を再開し、路上の子ども 14 名に対して、問題解決をテーマにした「ライフスキル研修」を実施しました。特に路上の子どもたちにとって密接に関わる問題として、病気や怪我をしたが金銭的に余裕がない場合、どの機関を頼りにすれば医療補助を受けられるかなどを、研修の中で取り上げました。

さらに、路上の子どもを取り巻く社会環境を改善するため、2 つの NGO 団体と「子どもの福祉議会」（政府機関）と話し合いをし、連携を深めました。今後は、子どもの保護と福祉を管轄する政府機関と NGO 等で構成される諮問委員会にアイキャンも加入し、政策提言を実施して、子どもたちが路上に押し出されない社会の実現を目指します。

未来を照らす、教育

私は 16 歳の時に子どもを産みました。子どもの世話を見る必要があり、学校に行くのを止めましたが、アイキャンのエドガーさん（現地スタッフ）から、いつも学校に行くよう言われてきました。

次第に、子どもの将来を考えるようになり、エドガーさんの言っていることが理解できました。自分の子どもには、自分のように路上で生活してほしくない。教育を受けて、明るい未来を迎えてほしいです。

だから私は、子どもの見本となれるよう、復学することを決めました。私の同級生はみんな私より小さい子たちで恥ずかしい気持ちもありましたが、自分の子どものために頑張ります。

（アイシーさん）＊仮名

＊ライフスキル研修：
日常生活の問題に向き合い、仲間とともに解決に取り組むための力を育む研修。

2-2. 首都マニラ近郊：協同組合カリエ

私たちが路上の子どもたちに「光」を照らす存在になる

協同組合カリエへの能力強化

- 地　域　　：フィリピン共和国マニラ、リサール州サンマテオ町
- 目　的　　：元路上の若者の自立と次世代リーダーの育成
- パートナー：カリエのメンバー9 名

路上で生活する子どもたちの背景の一つに、家庭の貧困があります。経済的な理由で路上生活を強いられているだけでなく、周囲の大人の多くが路上で生活し、家族を支えるために通学もできないため、路上生活以外の選択肢があることを意識するのが難しい状況です。将来の展望を持てず、路上から抜け出せないため、世代を隔てて貧困が連鎖しています。

アイキャンでは、元路上の若者で構成される協同組合「カリエ」へのビジネスや組織運営の助言及び能力強化を行っています。今期は、日本でシフォンケーキ専門店を運営するオーナーの協力を仰ぎ、カリエのメンバー9 名に対して、オンライン及び実地のシフォンケーキ製作研修を 19 回実施しました。

ふわふわで美味しいシフォンケーキを焼くには、古くて温度調整さえもできないオーブンを買い替える必要があったため、日本のシフォンケーキ専門店との協働でクラウドファンディング*を実施しました。その結果、延べ **312 名**の方から、目標金額を超える **3,666,775 円**が集まり、オーブン、冷蔵庫、製菓道具を購入することができました。これにより、シフォンケーキを製造・販売できるようになっただけでなく、以前から製造・販売してきたパンもより美味しく焼けるようになりました。

また、顧客は誰でどこにいるかなどを考え、商品をより多く販売するための具体的な戦略を立てたり、カリエ自身の SNS を定期的に更新し、応援してもらうためにはどのようにメッセージを伝えればよいかを試行錯誤したりと、マーケティングや広報にも意欲的に取り組んでいます。

事務局長福田が、カリエメンバーに教えるために、シフォンケーキ専門店で修行しました。

2022 年 12 月のクリスマスに、カリエのメンバーは、クラウドファンディングで購入した新しいオーブンを使って焼いたシフォンケーキをふるまいました。ケーキを食べた「子どもの家」の子どもたちと路上で生活する子どもたちからは「ふわふわで美味しい」と大好評でした。

皆さんへの感謝

シフォンケーキの作り方を教えてくれたシェフ、クラウドファンディングでカリエを応援してくださった皆様には、感謝しかありません。

今後の私たちを見ていてください。今後も挑戦し続けて、路上の子どもたちの「希望の光」であり続けます。

（カリエメンバー　リカさん）

＊クラウドファンディング：
インターネット上での資金調達

2-3. 首都マニラ近郊：ゴミ処分場周辺地域

楽しく学び、子どもの栄養改善を地域の当たり前に

地域参加型給食活動及び食行動改善の啓発活動、フェアトレード生産者団体（SPNP）への能力強化

- 地　域　　：フィリピン共和国マニラ市、ケソン市
- 目　的　　：低栄養状態の子どもの保護者の食行動改善と SPNP の組織運営能力の向上
- パートナー：低栄養状態の子ども 129 名、保護者 150 名、SPNP メンバー10 名

マニラの最貧困地区であるトンド地区は、他地区と比べて低栄養状態の子どもの割合が高く、栄養状態の改善は喫緊の課題です。

今期は、トンド地区において、給食活動や各家庭の食行動改善の啓発を担う住民組織を結成しました。住民 11 名がメンバーとなり、延べ 9,001 名の 3 歳～5 歳の幼児に、給食を週 5 日提供しました。また、現地企業とも協力し、延べ 3,840 世帯に栄養価の高い食事セットを提供しました。

さらに、「日々の食事内容の改善～家族に栄養のある食事を～」をテーマにしたポスターコンテストを開催し、トンド地区の母親と若者計 20 名と地域の保健師及び栄養士計４名が参加しました。コンテストを通して、日々の食事の改善が子どもの栄養状態改善に繋がることを啓発しました。

フェアトレード商品生産者団体 SPNP とは、今後の方向性と次世代を担う新しいメンバーの育成に関する話し合いを行いました。

3. ミンダナオ島：小水力発電とデジタル教材

コロナ禍のため、今期の活動はありませんでしたが、連携先の企業との協議を 2 回行い、活動は来期に持ち越しとなりました。

4. 自然災害への対応

今期は自然災害の深刻な被害はなかったので、活動実績はありません。

啓発ポスター―コンテスト以外にも、住民組織のメンバー11 名は、トンド地域の子どもたちが置かれている状況を踏まえて、日々の食事を改善して、子ども達の栄養を改善する重要性を訴える動画を作成しました。作成した動画の上映会を開催し、250 名の住民が参加しました。

変容する住民組織

子どもたちの栄養改善のために一致団結して頑張っている住民組織のメンバーですが、もともとは知り合いではなかったメンバーもいます。しかし、一緒に活動する中で関係が深まり、「集まってメンバーと話すのが楽しみになっている」と語るメンバーがほとんどです。活動する中で関係が深まり、個人の課題を共有し合う中で、一緒にビジネスを始めるようにもなりました。

栄養改善という目的で結集された住民組織ですが、その組織は時間が経つにつれて、お互いを支え合い、ともに課題に取り組む組織へと変容しています。

アイキャン事務局長
福田浩之

ジブチ事業（フォローアップ）

ジブチの難民キャンプでの活動は 2022 年 3 月に終了しましたが、パナソニック様との協働で、2021 年 11 月にホルホル難民キャンプで配布を行ったソーラーランタンの使用状況について、現地パートナーの ONARS を通じ、2022 年 7 月に 2 回目のモニタリングを行いました。また、治安の悪化によりなかなか配布を行うことができなかったアリアデ難民キャンプでも、2023 年 4 月には、残り 964 台の提供が完了しました。

モニタリングでは、85 世帯に聞き取りをした結果、以前と比較して自宅での勉強ができている子どもの数が増加したことや、1 日あたりの勉強時間が増えたことが確認されました。

助成事業

団体・機関名・助成金名	事業名・事業内容
公益財団法人 味の素ファンデーション	フィリピン都市貧困地域におけるゲーミフィケーションを活用した食行動改善（1 年次：2022 年 4 月～2023 年 3 月、2 年次：2023 年 4 月～2024 年 3 月）
公益財団法人 パブリックリソース財団	フィリピン・マニラの路上の子どもたちの未来をつくるプロジェクト（2022 年 5 月～2023 年 4 月）
中央共同募金会	愛知県及び岐阜県で生活する外国にルーツを持つ人々と地域関係者との相互理解促進事業（2022 年 9 月～2023 年 9 月）
デンソーグループはあとふる基金	地域団体助成（2022 年 11 月～2023 年 3 月）
真如苑	路上の若者グループ「カリエ」による、フィリピンの路上の子どもの課題の抜本的解決に向けた挑戦（2023 年 2 月～2024 年 1 月）
公益財団法人 風に立つライオン基金	フィリピンの路上の子どもの予防と早期介入のための基盤構築事業（2023 年 4 月～2024 年 3 月）
公益財団法人 ウェスレー財団	ポジティブ・デビアンスの手法を用いたフィリピンの路上の子どもの通学促進（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

受託事業

団体・機関名	事業名・事業内容
外務省	令和 4 年度 NGO 相談員（13 年目）：中部地域における NGO に関する相談窓口（2022 年 4 月～2023 年 3 月）
名古屋青年会議所	世界に羽ばたく人材を育成する事業（2022 年 7 月）
JICA 中部	愛知県・岐阜県の在住フィリピン人の支援への入口を阻む課題調査（2022 年 10 月～2023 年 3 月）
（株）オルタナティブツアー	スタディツアー現地手配業務：アイキャン事業地訪問コーディネート（2023 年 3 月）
長野県上田高等学校	ヒューマン・イン・アクト・イン・マニラ、オンラインプログラム：オンラインによる海外研修（2023 年 3 月）

Ⅱ．国内事業

世界で人道危機が多発している一方、日本ではそれらの情報や社会の中で弱い立場に置かれた人々の「こえ」に触れる機会は限られています。しかし、世界の課題を知り、それを「自分の課題」として認識し、解決に向けて能力を向上させていくことは、重要であるといえます。

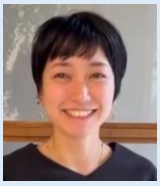
こうした課題意識から、アイキャンでは日本国内での「能力強化事業」として、学校やイベント等での講演のほか、フィリピンで直に「こえ」を聞いてもらうスタディツアーを実施してきました。2020 年からはコロナ禍のため、オンラインでのスタディプログラムとなりましたが、2023 年 3 月には現地訪問型のツアーを再開しました。

一方、地球規模の課題を知った方が行動を起こしたいと思っても、生まれ育った地域に根差して活動できる機会は、依然として限られています。そのため、ボランティアや寄付など、「できること」を実践することが生活の一部となる社会を目指して、「ボランティア・寄付活動推進事業」を実施してきました。

具体的には、日本事務局での事務作業や街頭募金活動のボランティアを募集し、「行動したい」と思った人が「できること」を実践できる場を創出しているほか、未投函ハガキや古本の寄付など、身近にある不用品の寄付で「できること」についての情報も積極的に発信しています。

グローバル化が進む中で、日本の豊かな暮らしの多くが世界の資源によって支えられています。決して海外の課題は他人事ではないと感じます。また、よりよい社会・未来のためには、一人一人の行動が必要であり、「できること」を増やしていく国内事業は非常に重要だと思っています。

ボランティアや寄付等、それぞれの形で「できること」を実践し、私たちとともに活動してくださっている皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。より多様な課題を解決できるアイキャンになるためにも、今後国内事業を発展させていきたいと思っています！



アイキャン職員
吉田文

1．能力強化事業

知り、考え、行動する力をつける

1）講演・イベント活動・訪問受け入れ

- 地　域　　：中部地方を中心に、全国
- 目　的　　：地球規模の問題を伝えるとともに、NGO 活動への理解を促進し、市民の「できること」の実践を促す。
- パートナー：学校（中学校～大学）、地方公共団体、等

愛知県の中学・高校で 5 件、東京都の中学校で 1 件の講演を実施したのに加え、オンラインの自主イベントを 13 回実施し、フィリピンの現状や人々の暮らしと、その課題解決に対して一人ひとりにできることのヒントを具体的に伝える活動を実施しました。また、高校生や大学生、教員、アフリカで活動する NGO 等、多様な方々の事務所訪問を受け入れ、参加者の行動を後押しできるよう、お話したり相談に乗ったりしました。これらの活動に、計 375 名の方が参加しました。

イエメンの紛争やジブチの難民キャンプでの活動についての講演を聞いて、一番心に残ったのは、自身も難民なのにキャンプ内で活動している、私と同年代のボランティアの話です。自分も大変な状況にあるのに、子どもたちのために活動をすることは、すごくかっこいいと思ったからです。

（中学 2 年生）

2）NGO 相談員中部ブロック窓口

- 地　域　　：中部・北陸 8 県を中心に、全国
- 目　的　　：国際協力への理解促進
- パートナー：外務省、名古屋 NGO センター

国際協力分野で経験と実績を持つ日本の NGO として、外務省から「NGO 相談員」の委嘱を受け、国際協力に関する質問や相談に対応したり講演を実施したりする本活動も、13 年目となりました。今年度も、相談対応や講演が相談者の具体的な実践に繋がるよう、可能な限り「できること」を増やせるよう意識して対応しました。

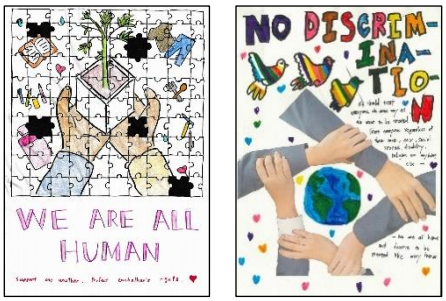
NGO 相談員としての講演の様子

その結果、相談が活かされて実践に繋がった行動（アウトカム）の事例を、目標を超える 7 件収集・記録することができました。全体では、5 月から 3 月までの 11 カ月間で 1,158 件の相談に対応し、また、中部・北陸を中心に 6 都県で、9 件 403 名への出張相談を実施しました。

3）国際理解教育（SDGs 促進活動）

- 地　域　　：愛知県／マニラ首都圏
- 目　的　　：日本とフィリピンをつなぐ「かけ橋（＝タガログ語でトゥライ）」となり、相互理解を深めるとともに、日本でできることを実践する人を増やす。
- パートナー：愛知県内 6 校の中学・高校、フィリピンの子ども 16 名。

今年で 15 回目となるトゥライ・プロジェクトは、子どもの権利を再認識する日である 11 月 20 日の「世界こどもの日」をテーマとした啓発ポスターの作成と交流を行いました。子どもたちが自分たちの持つ権利について学び、相互理解を通して、すべての子どもが未来に向かって自らの持つ可能性を伸ばせる社会へ向けて考え、行動を起こせるよう、具体的で身近な実践事例を提示しました。その結果、日本側の参加生徒数は、前年度の 123 名から 257 名に増え、書き損じハガキの収集、古本や不要物品の収集、フェアトレード商品の購入や販売、街頭募金活動等の実践に繋がりました。



日本側参加者が作成したポスターの例

フィリピンの子どもたちと直接会えなくても、ポスターを通して交流できて幸せでした。交流後、文化祭でフェアトレード商品を販売しましたが、フィリピンに行かなくても「できること」があると気づくことができました。

（高校 1 年生）

4）インターンの受け入れ

- 地　域　　：愛知県／マニラ首都圏
- 目　的　　：将来国際協力の分野で働くことを希望する若者に、一定期間の就業経験を提供することで、NGO で活躍できる人材を育成する。

日本事務局においてインターンを計 2 名受け入れ、フェアトレード販売、広報活動、ボランティアコーディネート、事務等の業務に従事し、NGO 業務に関する知識と経験を得てもらいました。コロナ禍の影響もあり、今年度もマニラ首都圏でのインターン受け入れはありませんでした。

インターンを通して多様な方々と関わったことで、人それぞれの「できること」によって社会をよりよくしていけるのだと気付きました。私の場合はそれが街頭募金や大学での勉強等で、一つ一つが課題解決に向けて大切だと思いました。

（インターン生：徳重結希菜）

5）スタディツアー・海外研修

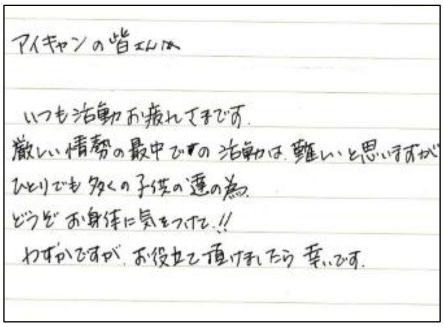
- 地　域　　：マニラ首都圏／日本国内（オンライン）
- 目　的　　：事業地の子どもたちが抱えている課題を学び、解決へ向けて行動していく人を増やす。
- パートナー：マニラ首都圏の路上の子ども、元路上の子ども・若者、市民、等

コロナ禍の影響で、今年度もオンラインでの研修が中心となり、4 件実施し、計 46 名が参加しました。一方で、12 月以降は事業地訪問も 5 件受け入れ、計 20 名が参加しました。また、3 月には 3 年半ぶりに、現地でのスタディツアーを再開することができ、計 14 名が参加しました。

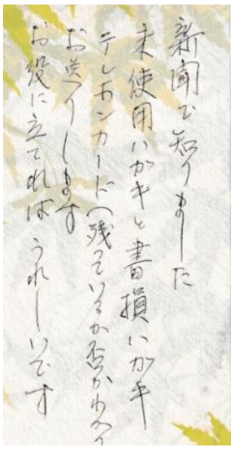
時々スタディツアーのメモや写真を見返して、当時を懐かしく思い出しています。その度に聞きたいことがどんどん増えているし、「子どもの家」で子どもたちが全力で一緒に遊んでくれた楽しさが忘れられないので、またツアーに参加したいです。フィリピン語を勉強し、通訳なしで話せるようになることが今の目標です。現地で感じた、話せない悔しさを糧に、今までで一番フィリピン語の勉強を頑張っています。

（2023 年 3 月のツアー参加者）

2．ボランティア・寄付活動推進事業


アイキャンの皆さんへ

いつも活動お疲れさまです。
厳しい情勢の最中ですので活動は難しいと思いますが
ひとりでも多くの子供の運の為
どうぞお身体に気をつけて!!
わずかですが、お役立て頂けれたら幸いです。


新聞で知りました
未使用はがきと書損じはがき
テレホンカード（残っているかどうかわか
お送りします
お役に立てればうれしいです

書き損じはがきのご寄付に同封されていたお手紙

自分にできることを行う場を提供する

1）物品収集促進活動

- 地　域　　：全国
- 目　的　　：身近な物でできる活動の実践を促進する
- パートナー：一般市民等

市民に「できること」を実践するきっかけを提供するため、チラシやSNS、講演等を通して、はがき、切手、古本やリユース品等、不要になった物を寄付するという方法を紹介しました。また、収集物の集計の際に積極的にボランティアを募り、ボランティア活動の促進に繋げました。

2）広報・資金調達活動

- 地　域　　：全国
- 目　的　　：最新情報を広く発信するとともに、企業や教育機関等との連携を強化し、寄付活動を促進する

アイキャンをより身近に感じてもらえるよう、団体ホームページにスタッフ紹介ページを作成しました。また、SNS を定期的に投稿し、より現地の状況を伝えるために動画での発信も行いました。さらに、広報強化のため、IT 技術者のボランティア 1 名が継続的に関わってくださることになり、ホームページの英語版開設準備も行いました。

20 年以上 IT 技術者として培った技術と経験を、皆さんに『寄付』する機会を得たことを喜ばしく思っています。 国際協力 NGO のボランティアとしては初心者ですので、沢山学びたいと思っています。
（IT ボランティア　吉山晃さん）

3）寄付促進活動

- 地　域　　：全国
- 目　的　　：市民の社会貢献活動への寄付を促進する。
- パートナー：一般市民等

単に寄付を促進するのみでなく、毎月一定金額を継続して寄付する「マンスリーパートナー」や、「子どもの家ファミリープログラム」への加入促進に力を入れるため、広報強化に取り組みました。特に、ファミリー

ファミリープログラム交流会の様子

プログラム説明会をオンラインで定期的に開催し、その中で路上の子どもの現状と課題を説明するとともに、アイキャンの「子どもの家」での活動を紹介し、同ファミリープログラムへの参加を呼びかけました。

4）フェアトレード商品販売促進活動

- 地　域　　：全国
- 目　的　　：生産者の「こえ」を社会に届ける。
- パートナー：一般市民等

今年度は全 8 件のフェアトレード出店を行い、計 11 名のボランティアの方の参加を得ることができました。生産者の「こえ」や生活状況等の背景情報に加え、アイキャンの活動についてまとめたチラシを作成し、購入者に配ることで、国際理解の促進にもつなげることができました。

今年度は、名鉄百貨店でのスマイルフェアに初めて参加しました。フェアトレードや国際協力、フィリピンに関心がある方もいましたが、関心がなくても、生産者についての話をすることで興味を持ち、「買うことで貢献できるんだね」と言って買ってくださる方もいました。商品について「可愛い」の声が多く、一度購入した後、別の日に再度買いに来られた方もいました。

アイキャン職員
庭田美環

5）街頭募金促進活動

- 地　域　　：愛知県名古屋市
- 目　的　　：はじめの一歩として参加する機会を提供する。
- パートナー：一般市民等

長引くコロナ禍により、参加人数制限を継続したため、各回のボランティア数は限られましたが、81 名（延べ 90 名）のボランティアの参加を得て 10 回実施し、通行人 560 名からご寄付を頂きました。

6）事務所ボランティア促進活動

- 地　域　　：愛知県名古屋市、マニラ首都圏
- 目　的　　：市民の「できること」の実践を促進する。
- パートナー：一般市民等

感染症対策として、ボランティアの受け入れ人数の制限を継続したため、参加できるボランティア数は限られましたが、日本事務局でのボランティア活動に 26 人（延べ 130 名）の方が平均 5 回参加しました。また、フィリピン事務所では社会人ボランティアを 1 名受け入れました。

家にいてもただ時間が過ぎるだけだけど、ここにいると小さなことだけど役に立っているし、充実感を得られる。簡単なことしかできていないけど、関わらせてもらえて嬉しいし楽しみに来ている。

（事務所ボランティアの方）

3．多文化共生事業

日本で暮らすフィリピン人の「こえ」をきく

愛知県・岐阜県の在住フィリピン人 50 名、3 自治体、小中学校 21 校、企業 4 社、6 つの市民団体に対し、在住フィリピン人の生活上の課題及び対応についての聞き取り調査を実施し、その報告書を 300 部作成しました。

私たちの困り事を聞いてもらえたのは初めて。私たちは言葉の壁もあって、行政に意見を伝えたくてもなかなか言えない。私たちの声を社会に届けてくれる人が必要だと思う。

（愛知県在住のフィリピン人）

マンスリーパートナー募集中

マンスリーパートナーは、月々500 円（1 日 17 円）から一定額をご寄付いただき、アイキャンの活動および運営に活用させていただく制度です。継続的なご寄付は、活動の持続・発展において大きな力となります。ぜひマンスリーパートナーになって「ともに」活動してください！

↑詳しくはこちら

未投函ハガキ等募集中

未投函の官製はがき、未使用切手、テレフォンカード、商品券、収入印紙がお手元にありましたら、封筒に入れて、アイキャン日本事務局までご郵送ください。

ハガキ 1 枚は、例えば、フィリピンの子どもが勉強するためのノート 1 冊分になります！

↑詳しくはこちら

リユース寄付（古本・DVD・ゲーム・おもちゃ等）

ブックオフコーポレーションと連携した、物品によるご寄付の形です。不要になった本や使わなくなったモノ等をブックオフに買い取っていただき、その買い取り額がアイキャンの活動に役立てられます。

↑詳しくはこちら

特定非営利活動法人アイキャン （ICAN）

アイキャンは、一人ひとりの「できること」を持ち寄り、貧困・紛争・災害による影響を受けた子どもの能力向上や地域の環境改善に取り組む国際協力 NGO です。

住所：〒460-0008　愛知県名古屋市中区栄 1-31-30　パルナス栄 504
TEL/FAX：052-253-7299（火～土　11:00～18:00）
MAIL：info@ican.or.jp　　WEB：https://ican.or.jp/
@ICAN_NGO

WEB サイト